

補習校便り

2024年度第5号 2024年12月21日発行 チューリッヒ日本人学校補習校
ホームページ www.iszurich.ch

校長 長森 千枝

先月、谷川俊太郎氏がお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表します。国語教科書にある小学3年「どきん」、6年「生きる」、中学1年「朝のリレー」をはじめ多くの詩が子どもたちに親しまれています。2008年5月には、本校にも来校いただき、「読み聞かせ会」が行われました。「補習校便り2008年3号」にある当時の大久保芳子校長の巻頭言や「読み聞かせ会」の記事、「子どもの広場」には、あふれんばかりの子どもたちの感想があり、すばらしい会であったことが、ありありと示されています。感想のどれもが、楽しかった、うれしかったというもので、会場が何度も大笑いになったということから、子どもたちの顔とそのときの様子がよみがえりました。1時間にもわたる作者の声による詩の朗読や、絵本の読み聞かせがあり、いっしょに校歌や歌を歌いました。そして、子どもたちからの質問が30分間も続いたのです。

絵本は、プロジェクターで写され、声は、大小、高低、遅速の変化に富み、擬態語は、物が動く様子が目に浮かび、耳に残るほど印象づけられる読み聞かせでした。そこで学んだ谷川氏の読み方を真似て読んだ「もこもこ」、「これは のみの ぴこ」は、家庭で我が子に何度も読み聞かせをせがまれるほど楽しい読み方だったのです。参加した子どもたちに人気があった詩は、「生きる」「ゆっくりゆきちゃん」「おならうた」「うんこ」でした。また、谷川氏が楽しそうに歌われた「日本語のおけいこ」や、谷川氏作詞「月火水木金土日のうた」は、我が家でもよく流し、当時担任をしていた補習校1年生とも毎年いっしょに歌いました。

ここで、「補習校便り2008年3号」に書き留められた谷川氏の言葉を紹介합니다。

「立派な詩を書こうとしないこと、ニュートラルで波が立っていない静かな時にいい詩が生まれる。」

「自分を空っぽにして待っているんです。言葉が出てくるのを。」

「子どもと大人の区別はないんです。大人にもおもしろくなければ子どもにもおもしろくない。」

「詩を書くとき、一つの言葉を大切にそこからイメージをふくらませていきなさい。」

「詩を読むときも意味を分かろうとして、それにとらわれてはいけない。」

「質問するときには追及する気持ちを持ってしなさい。」

「谷川さんは、心を込めてとても上手に読んでくれた、谷川さんみたいに読みたい、谷川さんのような詩を書いてみたい」、子どもたちの感想です。

私たち教員は、「限られた時間で学び続けている補習校の子どもたちに、いかに楽しく繰り返し、学びを定着させて、力をつけていくのか」ということについて研修を積み、試行錯誤しながら、よく話し合います。谷川氏から学んだことに、その手がかりがあるのだと思いました。子どもが心から楽しめる質の高いものを与えること、子どもが声に出して読むことを楽しむことです。

谷川氏は、目の前の子どもたちの心に響く詩を朗読し、心の奥深くまで届けてくださいました。詩を声に出して読む楽しさを子どもたちに経験させてくださいました。本物を子どもたちに与えて感性を育ててくださったのだと思いました。

「読み聞かせ会」は、全日校派遣教員が会場づくりを、補習校教員が手作りの昼食を、保護者数名が昼食の差し入れや準備、後片付けを担い、協力した手作りの会だったのです。

本年も、学校教育へのあたたかいご理解とご支援をありがとうございました。健康で楽しい冬休みをお過ごしになられ、よいお年をお迎えください。



お願い

懇親会 家庭室利用

低学年を中心に家庭室（111教室）を利用して、横のつながりを密にし、親子で交流を深められています。
家庭室利用をご希望の際は、土曜日に、問合わせ、事前に、校舎使用願いをご提出ください。

お知らせ



図書室 冬休みの利用について

開室日：掲載できません。学校にお問い合わせください。
利用時間：掲載できません。学校にお問い合わせください。
利用について：貸出・返却のみ
貸し出し冊数：5冊まで（常時）
*新刊図書：学期中、長期休業中とも1冊まで
注意事項：
1. 返却は、もとの場所に本を戻す
（戻す場所がわからない場合は返却コーナーに置く）
2. 来校・下校の際、必ず職員室に声をかける



図書室前靴並べ ご協力ありがとうございます

特に11時には、児童生徒の入れ替わりがあるため、多くの利用者が図書室前に靴を並べます。次の人が靴を踏まずに入れるように、入り口手前脇に並べたり、指導してくださったりしている保護者の方々、ありがとうございます。



図書貸出カードについて

- ・図書カードがなくならないように、自分の名前を書き、必ず自分のクラスの引出しにカードを入れる。
- ・引出しに入れるのは、今使っている1枚だけにする。
- ・使い終わったものは、「使用済み」の引出しに入れる。（持ち帰っても構わない。）



補習校 対応について



補習校は、土曜日のみの学校です。
週日にいただいた質問などへの対応、返答に時間をいただきます。
特に学校休暇中は、返答までに十分時間をいただきます。
ご理解のほどお願いいたします。

2024年度 3学期予定

掲載できません。
学校にお問い合わせください。

証明書発行



休暇中は発行いたしていません。必要な場合は、十分余裕をもって早めに担任にお申込みください。
ご希望の期日に添えない場合もあります。

卒業式の日には授業もあり、特別時間帯になります。詳しくは3月に「お知らせ」を配信します。



皆勤賞今年も実施します

お子様が皆勤賞の対象となるかが不明な場合は、担任にお尋ねください。

校内漢字総復習試験



校内漢字総復習試験が来年始業日に実施されます

小学部の低学年の頃は、案外楽しかった漢字学習も学年が上がり、語彙が増えるにつれ困難になってきます。ほとんどの漢字は、小3、4年までに習った漢字の部首や部分の組み合わせでできています。基礎をしっかり身につけることが大事です。

そこで、本校では、国語学習の基礎である漢字を定着させるため、1996年に「校内漢字検定試験」を発足させました。以後、毎年児童生徒の学習状況を見ながら改訂を加え、現在の「漢字総復習試験」という形で、毎年4月の始業日に実施しています。

試験の範囲

出題は、小学部では、基本的に教科書巻末の新出漢字の語句とします。新出漢字の読み方、書き方がわかりやすい一覧表になっていますので、これを勉強することによって今年度の漢字を身につけることができます。新出漢字の他に、筆順、画数、部首、熟語などについては、各担任が補充のプリントを配布することもあります。また、漢字ドリルから出題される場合もあります。

中学部は教科書と「あかねこ中学漢字スキル」からの出題です。

詳しくは、担任が授業で出題範囲や勉強の仕方を説明します。3学期は今年度の総復習と来年度の準備期間です。この試験に向けて漢字に力を入れますので、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2025年度の行事予定



掲載できません。学校にお問い合わせください。

※ 夏祭り計画中



文部科学省
子供の学び応援サイト

放課後、冬休み 何しようか？

児童・保護者向け

文部科学省

きみの好き、応援サイト
たのしくまなび隊

※たのしくまなび隊は文部科学省が運営するポータルサイトです。

きみの好きなことはなに？まなび隊といっしょにさがそう！

「好き」から始める学びの冒険に出かけよう！

アクセスはこちらから！

たのしくまなび隊

無償で利用できる教材や動画等を紹介しています。
社会科、自然科学、おすすめ本など活用して学びを広げましょう。
<https://tanoshikumanabitai.mext.go.jp/>



教育相談

おしらせ

さみしい はなしを
きいてほしい

だれにも
はなせない たすけて
ほしい

とても
つらい

なや そうだん
こんな悩みがあったら、相談しよう！
～特定非営利活動法人 NPO～

あなたのいばしょ
24時間365日、いつでも
だれでも、チャット相談
<https://talkme.jp/>

こころのほっとチャット
東京メタルヘルス・スタジアム
LINE、Facebook、
チャットで相談できます
<https://www.npo-tms.or.jp/service/sns.html>

生きづらびっと
だれにも相談できない
悩みに、SNS相談
<https://yorisoi-chat.jp/>

チャイルドライン
18歳までの子どものための
相談先です
<https://childline.or.jp>

BONDプロジェクト
女の子のための、
女性による相談
<https://bondproject.jp/>

なまえ い むりょう きがるに そうだん
名前を言わずに無料で気軽に相談できます

海外に在留する児童生徒が抱える問題についても相談を受け付けています。

あなたのいばしょ
<https://talkme.jp/>
生きづらびっと
<https://yorisoi-chat.jp/>
チャイルドライン
<https://childline.or.jp/>
こころのほっとチャット
<https://www.npo-tms.or.jp/service/sns.html>
BONDプロジェクト
<https://bondproject.jp/>



報 告

補習授業校オンライン 運営委員長会議



11月6日（木）に、在外教育施設の運営責任者とのネットワーク強化を図るべく、海外子女教育振興財団により合計2回開催され、長森校長が参加しました。
財団、国や行政の立場から、「在外教育施設振興法」に基づく学校安全対策強化、教育支援向上について説明がありました。
今回のテーマ「持続可能な学校運営」について、複数校の取り組み紹介と意見交換がありました。
他校の工夫や課題解決方法を参考にしながら、よりよい学校を目指します。

第3回 運営委員会

11月15日（金）

- ・全日校、補習校から報告がありました。
- ・次年度行事予定が承認されました。
- ・学校銀行口座、学校基金、その他の事項について審議され、承認が必要な内容については全て承認されました。



冬の朝のあたたかい出来事



11月末、1限目授業前に、「学校隣の市営プール駐車場から学校通路に入る辺りが凍結していて危険だ」と子どもを送ったお父さんとお母さんが職員室に伝えてくださいました。いっしょにその場を見に行ってはみたものの、学校の凍結防止用塩について把握しておらず、プール管理室も閉まっています。すると、お父さんが近くの店で、凍結防止塩を購入して、凍結していた所にまいてくださったのです。駐車場を利用して学校に通う人々が滑らないようにと思って、してくださいました。ありがとうございました。



寄附

ご寄附を賜りました。

2024年度夏祭り実行委員会 様
PaPaYatai 様

厚く感謝申し上げますとともに、有効に使わせていただきます。



教育活動アンケートに関して

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。高評価と多くの励ましのお言葉をちょうだいしました。心より感謝申し上げます。学校をよりよくするために、皆様からの貴重なご意見を参考にし、来年度の教育活動につなげていきます。
今後も、アンケートのみならず、日頃から、気づきやご意見を伝えていただければありがたく思います。

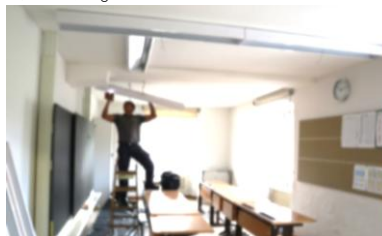
環境整備

グラウンド整備、照明交換、壁塗り替え

グラウンドの芝生部分にモグラの穴や雨水等で凹凸がありました。2学期前半に業者による重機等を活用した改修が済み、平らになりました。

校舎内では、休業日を活用して、廊下や教室照明のLED化が進み、教室がより明るくなりました。

2階（日本式）廊下や教室の壁が塗り替えられ、美しくなりました。皆で学校施設を大切に使いましょう。





コンテスト 受賞おめでとうございます

今年も多くの子どもたちが各種コンテストに参加し、素晴らしい結果が届けました。学んだことを生かして、努力して参加したからこそ得られたものです。来年も積極的に参加しましょう。

こども教育支援財団主催 第6回 子ども作文コンクール

海外賞 中3 A.B



受賞作品 https://kodomo-zaidan.net/ourbusiness/career_path/essay/concours#overseas01

海外子女教育振興財団主催 第45回 海外子女文芸作品コンクール

<詩の部門>

佳作 小2 Y.A

「あ」のつくことば

<俳句の部門>

佳作 小5 S.B

花の雨ピアノとともにいる



学校ボランティア 生け花教室

9月28日(土)家庭科室にて華道池坊正教授二級総華監の先生による生け花教室が実施され、小学4年生～高校生10名の児童・生徒が参加しました。

子どもたちは、和装姿の先生から生け花について学んだ後、水切りや花材の扱い方について先生のデモンストレーションを見て、作品へのイメージを膨らませました。次はいよいよ実践です。小菊やモミジ、ハマシダなどの秋の花々を、水面がきれいに見え、奥行きが出るように自由な発想で剣山に生けました。子どもたちは集中して、花器と花のバランスを考え、先生のご指導のもと作品を作り上げました。

当日は、ご家族総出で準備をしてくださいました。日本の季節感を大切にする美しい伝統文化に触れる貴重な機会を授けてくださった先生に感謝いたします。



図書ボランティア 図書カード整理

9月28日(土)、図書ボランティアの方々が、図書カードの返却日記入漏れに印をつけてくださいました。貴重な図書を皆が気持ちよく利用するための大切な作業です。ご協力をありがとうございました。



小学部6年2組が 幼稚部2組で朗読

10月26日(土)に、6年生の「やまなし」の朗読を幼児が静かに聴き入りました。その後、印象に残った登場人物の絵を入れた感想が幼児から6年生に渡されました。



高等部授業 ビブリオバトル



10月26日(土) 教員4名と保護者1名が、高校生の間に読んでおきたい本をプレゼンテーションして紹介しました。



研修会を実施

<全日校 研修会> 11月7日(金)

全日校教諭の小学4年生国語「未来につなぐ工芸品」の授業を参観し、研修しました。

子どもたちは、「初め・中・終わり」のまとまりに分ける活動とおして、根拠を明確して互いの考えを発表し合い、各段落の役割を考えながら文章の組み立てをとらえていきました。

研究授業後の全日校研究討議会に、補習校教員7名が参加し、アクティブラーニングや指導の手立てについて協議しました。補習校は、さまざまな分野で全日校の支援を受けています。



<補習校 研修会> 11月8日(土)

昨年引き続き「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てを探究」という研究主題のもと、国際部中学年担任が「家族旅行リーフレット作り～おすすめの場所を提案しよう～」の研究授業を行い、全日校派遣教員と補習校教員が参観をしました。トランスランゲージ・クラスルームの考え方を取り入れ、無理のない範囲で子どもの得意言語を活用して、教え合いながら学習することを手立てとしました。旅行写真と簡単な説明を記した担任のマップを例にして、リーフレットを書くための魅力を表す表現を復習しました。

子どもたちは、自分の旅行の写真を用いてiPadを活用してグループで見せながら、お薦めの場所と理由、魅力を説明したり、質問に答えたりしながら、内容を詳しく掘り下げました。次の授業では、友達の知りたいことを入れてリーフレットの説明を書いていきます。

また、当日は、教員間でも授業を公開し、全日校派遣教員に補習校児童生徒の学ぶ様子も見ていただきました。

放課後、全日校教員と補習校教員との合同研究討議会を行いました。グループに分かれて、研究授業の成果や課題、改善点を付箋に書き込みながら、「主体的・対話的で深い学び」について協議しました。研修での学びを授業に生かしていきます。



第11回SKNスイス継承日本語教育機関 連絡会

11月24日(日)に在スイス日本国大使館広報文化センターで開催されました。

本校の参加は2回目で、長森校長と他校兼務教員3名が参加しました。

SKN、フックス 美千代代表、在スイス日本国大使館、川原 剛広報文化センター長のご挨拶、各教育機関の紹介、継承日本語教育に関する日本の法律と現況報告があり、各グループで課題解決や今後の取組みについて協議しました。

スイス各地の継承語教育機関の代表、会計の他、教員や保護者など興味のある方々が参加し、継承語を学ぶ子どもたちのよりよい教育の継続について、熱意あふれる情報交換やネットワーク強化がなされました。

「被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！」プロジェクト

プロジェクトリーダー中央大学名誉教授 田中拓男先生からの「東北被災地の子どもたちを支援するクリスマスカード活動」への参加協力の呼びかけにより、補習校でこのプロジェクトに参加して8年目となりました。今年も子どもたちが心を込めて書いたカードを送りました。中には1人で複数のカードを書いた子、力強いメッセージを添えた立体カードを作った子、小さなプレゼントを入れた子もいます。あたたかいご協力をありがとうございました。

田中先生から、お礼のメールが届きました。

「本当に嬉しく、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。どのカードも、どのカードもとても可愛くて美しいカード、スイスからのカードだ！！！！

本当に深い感謝の思いで感動して見入っています。これからアップしてみなさんにも この喜びのお裾分けをしたいと思います。

今年は能登大地震や大水害があり、能登の子供達にもカードを分けて届けようと思っています。尚志高校の杉原先生からの連絡で 今年のクリスマスカードの展示会を開催されるそうで、スイス日本人学校補習校の子供達のクリスマスカードを展示させていただきます。杉原先生も大喜びです。

まだ少し早いですが、補習校の皆様、良いクリスマスをお迎えください。感謝」



『公式 facebook』 ↓ ↓ 11月14日に本校のカードが届きました。

<http://www.facebook.com/XmasCardsFromFriendsAroundTheWorld>

入学募集説明会

11月16日 (土)

小学部と幼稚部の入学募集説明会を実施し、学校の様子をご覧いただきました。



高等部・国際部高学年クラス説明会

11月29日 (土)

高等部と国際部高学年クラスの説明会を実施しました。



2024年度4月 入園・入学募集中

知人の方にお知らせください。



ジュネーブ日本語補習学校 とのオンライン合同研修会

12月7日 (土) 放課後、ジュネーブ補習学校との合同研修会を行い、今年度もオンラインでつながりました。教員は、学年別で10グループに分かれ、意見交換をして楽しく学び合いました。



太鼓部 活動開始

本校の児童生徒が太鼓を叩くようになって11年目となります。部活動として、小学3年生から高等部までの24名が、11月2日から練習を開始しました。中学生と高校生が中心となり、指導しています。日本の伝統文化の継承を担う子どもたちが、学年を超えて交流しながら楽しく太鼓を叩き、活動しています。



か	ロ	
ロ	ト	げ
ゴ	ラ	く
イ	ラ	が
イ	ス	げ
ケ	スケ	し
ラ	ケ	い
デ	ト	も
す	ト	で
。	は	す

す	さ	で	は
ん	い	わ	
ぽ	い	た	
に	し	ぬ	し
い	よ	で	が
け	に	す	ほ
る	し		
か	も	み	い
ら	リン	も	
で	へ	な	の

そ	で	は
う	す	わ
だ	べ	ロ
か	る	し
ら	の	ラ
で	が	ほ
す		ツ
。	た	い
	の	も
	し	ズ



		大	ほ	
		ま	し	ほ
		き	い	く
		た	で	は
		か	ま	。
		ら	。	ほ
		で	あ	し
		ま	ま	い
		。	く	も
			て	が

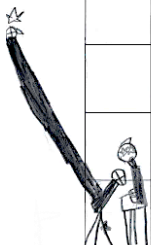


る		で	ニ	
か	マ	す	ソ	ほ
ら	イ	。	テ	く
で	ソ		ソ	が
す	ク		ド	ほ
	ラ		し	
	フ		ス	い
	ト		イ	も
	ガ		ツ	の
	あ		チ	は



つ	は
く	し
ワ	ゴ
た	で
い	大
カ	ぎ
ら	い
て	い
す	え
。	を

か		う	て	
ら	よ	で	ん	ぼ
で	る	す	た	く
す	の	。	い	の
	ほ		ぼ	ほ
	し		う	し
	を		え	い
	み		ん	も
	た		き	の
	い		よ	は



	い	け	
	か	け	ん
	ら	ん	だ
	で	だ	ま
	す	ま	で
	。	で	す
		あ	。
		そ	
		び	
		た	



小学部一年二組
ぼく・わたしのほしいもの

□		で	う	
ボ	そ	す	ち	ぼ
シ	の	。	。	く
ト	う		う	は
に	ち		せ	、
な	。		ん	か
リ	う		が	。
ま	せ		ほ	。
す	ん		し	い
。	は		い	い

い	て		ル	
か	ロ	ル	ン	(ぼ
ら	ボ	ン	バ	く
で	ツ	バ	で	の
す	ト	を	す	ほ
。	を	か	。	し
	つ	い		い
	く	ぞ		も
	リ	う		の
	た	し		(は

か	。	で	は	
ら	お	す	、	わ
。	に	。	お	た
。	わ	。	に	し
。	で		わ	か
	あ		の	ほ
	そ		フ	し
	び		ラ	い
	た		ソ	も
	い]	の

	あ		は	
	そ	ス	、	わ
	び	ラ	ス	た
	た	イ	ラ	し
	い	ム	イ	の
	か	ち	ム	ほ
	ら	の	で	し
	で	は	す	い
	す	し	。	も
	。	て		の

こ		で	。	
か	は	す	K	ぼ
。	ん	。	K	く
こ	に		g	か
い	ん		の	ほ
い	を		に	し
か	つ		ん	い
ら	か		ぎ	も
で	ま		よ	の
す	え		う	は

い		で	ニ	
か	マ	す	ン	ぼ
か	リ	。	テ	く
で	ホ		ン	の
す	カ		ド	ほ
。	し		し	
	ト		ス	い
	か		イ	も
	も		。	の
	た		チ	は

	ひ		は	
	き	学	、	わ
	た	校	バ	た
	い	で	イ	し
	か	バ	オ	の
	ら	イ	リ	ほ
	で	オ	ン	し
	す	リ	で	い
	。	ン	す	も
		を	。	の

い		ス	パ	
か	と	で	イ	ぼ
ら	う	す	ロ	く
で	き	。	。	の
す	。		ト	ほ
	う		の	い
	へ		ラ	い
	い		イ	も
	き		セ	の
	た		ン	は

	た		は	
	い	お	、	わ
	か	へ	イ	た
	ら	が	ケ	し
	で	を	ア	の
	す	き	の	ほ
	。	れ	か	し
		い	ぐ	い
		に	で	も
		し	す	の

く		す	タ	
な	ほ	。	イ	ぼ
りん			タ	く
ま	を		ニ	の
し	よ		ツ	ほ
た	ん		ク	し
	。		の	い
			ぶ	も
	ほ		ね	の
	し		で	は



小学部四年一組

秋休みの思い出

アイスランド

わたしは、秋休みにアイスランドに行きました。

アイスランドでは、いろいろなことをしました。その中でも、とくに楽しかったのは、オーロラを見たことです。オーロラは肉がんで、白く見えるのがふつうだそうです。わたしは、オーロラが緑に見えました。

アイスランドの食べ物、とてもおいしかったです。とくに、バターがおいしくて、毎朝パンにぬって食べました。また、羊肉の料理もやわらかくて、さい高でした。

また、アイスランドへ行ってみたいです。



わたしの秋休み

わたしは、秋休みの初めに、ヒップホップダンスの体験入学に行ってきました。十さいから十四さいまでのコースで、わたしが行ったときは、他に三人の生徒がいました。初めてだったけれど、先生がとてもいいねいに教えてくれて、楽しかったです。

休みの後半では、クラスの友達のとん生日会に行つて、レーザーシューティングゲームで遊びました。どきどき、はらはらしておもしろかったので、またしたいです。

コルシカ島の思い出

秋休みに家族で、コルシカ島へ行きました。コルシカ島は、まだあたたく、海やプールで泳ぐことができました。海は、とてもきれいで、水がすき通っていました。

ぼくと妹は、すなでおしろを作ったり、深いあなをほったりして遊びました。

一度、家族四人でとても深いあなをほったときに、すなから温せんのおいがかしてきました。母が、

「これは、いおうのにおいだよ。」と教えてくれました。

ゾーレンバークのプール

ぼくは、金曜日にゾーレンバークのプールに行きました。

そこでは、初めに大きなすべり台ですべりま

した。このすべり台は、高さ十四メートルくらい上つてから、長さ三十メートルをすべり降りるといふ、はく力のあるすべり台でした。外を通る所もありました。外のコーナーから、また中に入ると、急カーブでうつぶせにすべっていたぼくは、思わずひっくり返りました。そのとき、あお向けになってしまったので、起き上がるのに時間がかかってしまいました。

とても楽しかったです。

島のねこたち



わたしは、秋休みにフランスのコルシカ島とイタリアのサルディーニヤ島へ行きました。二つの島は、フェリーで、一時間で結ばれています。

どちらの島でも、ねこをたくさん見ました。特に、サルディーニヤ島のホテルで見た二ひきのねこたちは、かわいかったです。わたしは、「ナポレオン」と「スノーボール」と名付けて、遊びました。すすきをふると、飛びついてきて、おもしろかったです。

いつかまた、二ひきのねこたちに会いたいです。

ぼくの秋休み

ぼくは、秋休みに家族で、トルコに住んでいるおじさんの家に行きました。まだ夏みたいに暑くて、海で泳ぎました。

いちばん楽しかったのは、おじさんのかっ
ているねこ「ヤマン」とたくさん遊んだこと
です。ヤマンは、すてねこで、おじさんの家
に三回来ました。さい初の二回は、おばさんが
追い返しました。三回目に来たときに、かわ
いそうに思って、じゅう医に連れていきまし
た。それ以来、ヤマンは、おじさんの家に
います。ぼくは、ヤマンのことが大好きです。

ポルトガル旅行

わたしは、秋休みに家族とポルトガルに行き
ました。ポルトガルには、去年の秋休みに初
めて行きました。あたたかく、海がきれい
で、ご飯もおいしく、人もやさしいので、家
族みんな気に入りました。それで、今年も行
くことになりました。

ポルトガルでいちばん楽しかったことは、サ
ーフィンです。天気が悪かったり、波が高ず
ぎたりして、二日間しかできませんでした。
おぼろしかったけれど、立てるようになりま
した。またしてみたいです。



ぼくのさい高の秋休み

ぼくは、フランスとドイツに行きました。フ
ランスは、ディジョンとコルマルールに行きま
した。

さい初は、ディジョンにとまりました。着い
てから、お昼ご飯を食べました。その後、町

を散歩しながら、お店を見たり、観光をし
てきました。

次の日は、コルマルールに行って、「ハウルの
動く城」に出てくる家を見ました。ぼくは、
それが見られて、うれしかったです。

ドイツでは、ティティ湖に行きました。ぼく
は、レーザーゲームやザイルパークで遊びま
した。とても楽しかったです。

秋休みの思い出

わたしは、秋休みに乗馬キャンプに参加しま
した。キャンプに参加するのは、今回で三回
目です。

朝行って、まず、ポニーを外につれていき、
ブラッシングをします。その後、森に散歩に
行きます。

わたしのお気に入りのポニーは、ノアとい
う名前です。黒くて、ぬいぐるみのようなふわ
ふわの毛をしています。ノアは、全く言うこ
とを聞かず、わんぱくですが、そこがかわい
いです。

とても楽しいキャンプでした。また行きたい
です。

そ父とそ母

この秋休み、ぼくと兄は三ばく四日で、ビ
ーラッハのそ父とそ母の所に行きました。

そこで、いちばんうれしかったのは、祖父と
車で初めて行ったボールで、二人でチョコレ
ートクワッサンを食べたことです。

「チョコレート、もっとほしいかい。」

ボールのおじさんが、追加でもっとたくさん
のチョコを入れてくれました。ボールのテレ
ビには、イタリアの番組がうつっていて、見
ながら食べました。

*ボール：軽食きっさ店

楽しかった日本旅行

ぼくは、秋休みに日本に行きました。今回は
特別でした。なぜなら、ぼくのゴッティとお
くさんもいっしょだったからです。

ぼくたちは、まず東京に行きました。そこ
で、スカイツリーに上ったり、お台場で買
物をしたりしました。

その後、ぼくのそ父母が住んでいる沖縄に行
きました。沖縄では、海でシュノーケルをし
たり、り島の久米島くぐみに行ったりしました。他
にも、京都や大阪で観光をしました。

ゴッティもおくさんも日本が大すきになっ
てくれて、よかったです。

*ゴッティ：後見人

日本の遊園地

ぼくは、家族と三重県にあるナガシマスパー
ランドに行きました。平日だったので、人
気のあるジェットコースターもならばずにす
ぐに乗れてうれしかったです。

ぼくのいちばんすきな乗り物は、アクロバッ
トです。こうもりのようにおなかを下にして
進むジェットコースターです。ルーピングが
何回もあり、長くて、はげしくて、とてもお
もしろかったです。

来年は、父もいっしょに、もう一度行きたいです。

日本から来たそ父

秋休みに、ぼくのそ父が、スイスに来ました。来るのが楽しみだったので、うれしかったです。

そ父は、三週間スイスのぼくの家にとまりました。そ父は、ぼくの部屋でねたから、ぼくは妹の部屋でねました。そ父は、おこづかいをくれました。

そ父とぼくたちは、ピラトスとハイジドルフ、ラインフェルデンに行きました。

来年もこんなふうに楽しい秋休みにしたいです。

ゴム鉄ぼう

ぼくは、ぼくの住む村にある木工せい作所で、ゴム鉄ぼうを作りました。その鉄ぼうは、四回うてます。それは、四つの角がある歯車があるからです。仕組みは、引き金を引いたら、ぴんとはったゴムが歯車を回し、ゴムがはじかれます。引き金は、ばねでもどります。歯車は、的を定めるのにも役立ちます。的に命中したときがうれしかったんです。ぼくの作品のとくちょうは、四回続けてうてるところです。だから、お田信長もびっくりすると思います。

秋のイタリア旅行

ぼくは、家族といっしょにイタリアのコモに行きました。

ぼくたちは、山に登りました。そこには、多くのくりの木があって、たくさんくりを集めました。そのくりをやって食べたら、あまくておいしかったです。

山には、大きいきのこの形をした岩がありました。それを見て、自然の力が強いと思いました。

次の日、ロープウェイで他の山に登りました。山の色が赤や黄色できれいでした。めずらしいきのこも見ました。

わたしの秋休み

わたしは、秋休みにイタリアに行きました。妹と、いとこといっしょに一日中遊びました。夕食は、そ父母、いとこ家族とピザを食べに行きました。わたしは、ハムがのったピザを注文しました。おいしかったです。次の日、宿題をしました。それから、りんごのお祭りに行きました。そこで、わたしは馬に乗ってりんご畑に行きました。子どものエリアでは、箱とキーホルダーを作って、風船と本をもらいました。楽しかったです。



小学部四年二組

ごんぎつねを読んで

ごんは、兵十に火縄じゅうでうたれたけれど、最後に自分がくりや松たけを持っていったことに気づいてもらえたので、うれしかったです。思います。もし、きずがそれほどひどくなかったら、兵十と仲良くなっていたいっしょに魚を取ったり、住んだりして、いい暮らしをしていたと思います。

いたずら好きのごんが、兵十を助けるごんになる話だったらよかったです。

ぼくは、兵十にゆるしてもらえたかな。うだったらうれしいな。ぼくは、もっと生きたかった。兵十にもっとくりや松たけをあげたかったな。兵十をもっとおうえんしたかったな。今、兵十は、ぼくのおはかを作っているところかな。それとも、村の人たちにぼくのことを話しているのかな。

ぼくは、うなぎを取らなければよかった。いwashも投げこまなければよかったな。

ごんは、兵十に火縄じゅうでうたれてとても悲しかったと思います。どうしてかという、今までくりや松たけを持っていったこと

になかなか気づいてもらえなかったからです。

でも、最後に兵十が、ごんに目を落としたときは、びっくりしたことでしょう。

ごんのきずが深くなかったら、兵十が、ごんをかん病して、仲良しになったかもしれない。いい友達になったかもしれない。

ごんは、いつ兵十がつぐないに気づいてくれるのかをずっと待っていました。でも、ある日、いつものようにくりを持っていったときに兵十に見つかり、火縄じゅうでうたれました。ごんは、本当はもっと生きていたかったにちがいありません。けれども死んでしまいました。

兵十は悲しんで、ごんを土の中にうめたと思います。きつと兵十は、ごんにまたくりを持ってきてもらいたかったと思います。

ごんは、天国でうなぎを取らなければよかったと反省しています。

ごんは、兵十にうたれて悲しかったです。どうしてかという、もつと生きていたかったからです。兵十は、火縄じゅうでごんをうったことを反省していると思います。

ごんは、人間に見つかったら殺されるかもしれないのに、兵十へつぐないするためにくりや松たけを持っていきました。

もし、ごんが生きていたら、いたずらはやめて友達を作っていたと思います。この物語は、悲しいです。

中学部二年

意見文 日本語以外の言語使用について

私は、日本人学校補習校では日本語を話したほうがいいと思う。授業中に日本語以外の言語を使用することについては、反対だ。

理由は、二つある。

一つ目の理由は、せっかく日本人学校に日本人や日本語ができる友達といるのだから、日本語を話して日本語力を向上させたほうがいいと思うからだ。日本人や日本にルーツをもつ人と、違う言語を話すのは、少し違和感を覚える。もしある言葉を日本語でどう伝えるかわらなかったら、辞典で調べるか、わかる人にきけばいい。

二つ目の理由は、単純に日本人学校のルールだからだ。小学一年生のときから、「日本語を話してください」と言われてきたので、私は日本語を話すことに慣れてしまっている。今更ルールを変えられても、みんなが混乱するだけだ。そのため、日本語を話したほうがいいと思う。

みなさんは、このテーマについてどう思うだろう。私は、やはりみんなで日本語を話したい。みんなでもっと日本語を話そう。



僕は、国語の授業中に日本語以外の言語を使用することに、賛成する。

もちろん、国語の勉強をしているのだから、日本語を使用するのは当たり前だ。

しかし、日本語の単語がわからなかったり、知らなかったりしたら、誰かに言いたいことを伝えたいけれど、どうしても日本語だけでは伝えられないときがある。そんなときは、日本語以外の言語がわかる誰かに、正しい日本語をきいて学ぶのも、日本語を学ぶ方法の一つだと思う。だから、日本語以外の言語を使用することもいいと思う。

それに、授業中に話せるのが日本語だけでなく、日本語ができる子は多く発表することができる。意見がたくさん言えて、積極的に授業に参加することができる。しかし、日本語があまり上手でない子は、言いたいことが言えず、あきらめてしまうかもしれない。

ただし、がんばって日本語を話すことが一番だ。日本語以外の言語の使用は、どうしても必要なときだけにするのがいいと思う。

僕は、国語の授業中における日本語以外の言語の使用は、時と場合によっては、いいと思う。

先生に対しては、日本語を話す練習のために、日本語を話すべきだと思う。もし、言いたいことが日本語でどのように言うかわからなかったり、うまく表現できなかったりしても、問題はない。先生なら助けてくれたり、適切な言い方を教えてくれたりするからだ。

しかし、授業中、授業内容をクラスメイトと話し合うときには、日本語だけでなく、他の言語も使っていると思う。なぜなら、自分の意見を日本語でうまく伝えられないときには、自分の得意な言語で意見を伝えて、コミュニケーションを取ることは必要だと思われる。

例えば、グループで話し合うときに、日本語で伝えられない場合、スイスドイツ語で話すことができる。

このように、補習校にきている目的や日本語学習の大切さを理解したうえで、友達との会話では他の言語も許可されるべきだと考える。

僕は、補習校の国語の授業中に日本語以外の言語を話すことに、反対だ。

まず、日本語を確実に学ぶことがとても大切だと思うからだ。日本語力が高まると、自分の考えをうまく人に伝えられるようになる。他の教科の勉強にも役に立つ。日本語を使う力が着実に身につけていないと、難しいことを学ぶときに困ることが多い。

また、補習校の国語の授業は、週にたった二時間しかないからだ。そのわずかな時間に無理をして日本語以外の言語で話すよりも、日本語で話しながら授業を受けるほうが、内容をよりよく理解することができる。そのほうが、日本語の学びが深まると思う。

最後に、もし将来日本に行ったとき、日本語を適切に話すことができることが大切だと思うからだ。日本では、ほとんどの人が日本

語を使うので、日本語力があれば、生活や仕事で困らないはずだ。

このような理由で、補習校では外国語を話すよりも、日本語をしっかり使うべきだと考える。

僕は、国語の授業では、日本語以外の言語を使ってもいいという意見に賛成だ。

まず、国語を学ぶときに、日本語だけで全てを理解することは難しいからだ。そのため、母国語であるスイスドイツ語や英語での会話があると、さらによく理解できる。それから、学ぶスピードも上がり、日本語を学ぶストレスが減り、意欲的に日本人学校に通うことができる。

さらに、母国語で質問したり、みんなの説明を聞いたりすることで、クラスの話もスムーズになり、より授業が楽しくなるからだ。わからないことがあっても、他の言語できくと、早く答えが見つかる。そのため、授業が滞りなく進む。

最後に、日本語を学ぶやる気にもよい影響があるからだ。例えば、僕と英語を話すTとは、日本語より英語で話すほうが話が早く伝わる。すると、日本語を学ぶモチベーションが上がる。

これらの理由から、僕は日本語だけでなく、日本語以外の言語も話したほうが良いと思う。



僕は、国語の授業で日本語以外の言語を使うことに賛成だ。

日本語よりも日本語以外の言語を使うほうが便利だからだ。

例えば、僕は家や学校でドイツ語や英語を話すので、慣れている言語を使ったほうが、言いたいことをよりわかりやすく伝えられる。

そして、クラスの友達も、ドイツ語や英語がよくできるからだ。日本語以外の言語を使ったほうが、日本語よりさらにわかりやすく伝えることができる。

この意見に反対の人は絶対、「でも、じゃあ、なぜわざわざ補習校に通うの」ときくだろう。

けれども、多数の子は行きたくないのに、親が「行きなさい」と言っているから、補習校にきているだけだと思うので、全然やる気はないはずだ。

さらに、「でも、授業は二時間だけなのに、日本語以外の言葉を使いたくない」という反対意見もわかる。

しかし、僕はこの二時間を楽しく友達と話したい。

そのため、国語の授業で日本語以外の言語を使うことについて賛成する。

私は、国語の授業で日本語以外の言語を使うことについて、反対する。その理由を今から説明したいと思う。

一つ目の理由は、日本人学校には日本語以外の言語を話せない人がいるからだ。授業中に日本語以外の言語が使用されたら、その言語ができない人たちは何について話されているのか、わからない。そして、会話についていけない。だから、できるだけ日本語を話したほうが良いと思う。

もう一つの理由は、日本語を勉強するために、お金を払い、日本人学校に通っているからだ。日本語を使わなかったら、あまり勉強にならないので、お金の無駄だ。授業中に日本語以外の言語を話すと、先生だけでなく、他の生徒たちにも迷惑をかけることになる。さらに、日本語以外の言語を話すのであれば、この学校に来る意味があまりないと思う。

しかし、私は休み時間には、日本語以外の言葉を話してもいいと思う。休み時間なら、授業を邪魔することにはないからだ。

これが私の意見だ。

僕は、授業中に日本語以外の言語を使うことに賛成だ。

なぜなら、友達とのちょっとした会話や、そのときに感じたことなどを自分の言葉ですぐに伝えることができるからだ。

また、他の言語を第一言語にもつ人が多いので、日本語だけだと、言いたいことが言えなかったり、子どもっぽい表現になったり、言葉に詰まったりするからだ。

すると、からかわれるような気がして、発言したくなくなる。

ただ、日本から離れたスイスにいるため、日本語を使うことがほとんどない。そのため、ほとんど忘れて、話せなくなるかもしれない。半分日本人であり、日本が大好きな僕としては、それは困る。

そこで、どうしたら克服できるのか、考えた。

授業の半分は日本語のみで、残りの半分は好きな言語も使っていることにしてはどうだろうか。こうすれば、みんながより自信をもって活発に意見が言えるようになり、補習校での時間がさらに楽しくなるはずだ。

このように、ポジティブな気分のほうが授業内容もより身につくので、日本語以外の言語の使用に賛成だ。

補習校の国語の授業中に、日本語以外の言語を使用することについて、私は賛成とも反対とも言えない。どちらかとは、言いづらい。

まず、日本語以外の言語の使用に賛成できる場合だ。先生が日本語の言葉を説明するために、日本語だけでなく、日本語以外の言葉を用いて教えてくださると、わかりやすいくきもある。そのため、そのような場合は使用してもいいと思う。

しかし、私たち生徒は、授業中は日本語を使ったほうがいいと思う。なぜなら、日本語以外の言葉だと、私が知らない言葉もあるので、皆が日本語で話してくれそうれしいからだ。それと、補習校は一週間の中で二時間しかない。そのため、日本語を覚えるために

は、授業中は難しくても日本語を話したほうがよい練習になるからだ。

このように、先生が言葉の意味を説明するときには、日本語以外の言語を使うことに賛成だ。一方、生徒たちが授業中に日本語以外の言葉を話すことには、反対する。

私は、授業中における日本語以外の言語の使用について、賛成だ。

なぜなら、新入生が日本語を話せなくても、英語やドイツ語を使うことで友達を作れるからだ。

また、日本人学校では、他の言語でも会話ができるという点では、日本に行くよりも、優れているからだ。

例えば、日本人学校でドイツ語など日本語以外の言語を使うと、日本語しかできない人も他の言葉を学べるというメリットがある。中学二年生の約三分の二の生徒が他の言語も話してもいいという意見を選んだ。

一方、他の生徒の反論としては、授業中は日本語だけで話したほうが日本語を早く覚えることができるという理由が挙げられた。

しかし、やはり日本人学校がチューリッヒにあるという点で限界がある。日本語は日本で習うほうが、圧倒的に効率がいいからだ。

日本語を上達させるには、個人の努力が必要なので、他の言語がクラス内で話されているようが関係はない。

このような理由から、日本語以外の言語の使用に賛成だ。